

## 第2部

### 基本構想

湖南省市民憲章から、まちづくりのための5つの理念を掲げます。

### まちづくりの理念 1

美しい水と緑を大切にし、自然と調和したまちをつくります。

### まちづくりの理念 2

たがいの人権を認めあい、思いやりのあるまちをつくります。

### まちづくりの理念 3

子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちをつくります。

### まちづくりの理念 4

ゆたかな歴史を重んじ、香り高い文化のまちをつくります。

### まちづくりの理念 5

社会の規律を守り、安全で住みよいまちをつくります。

### (1) まちの将来像

市民、地域、企業、行政の協働によって生涯住み続けたいまちをめざし、本市の将来像(10年後)を、「ずっとここに暮らしたい! みんなで創ろう きらめき湖南」とします。

#### <まちの将来像>

ずっとここに暮らしたい!

みんなで創ろう きらめき湖南

(2) 人口の見通し

【このままの趨勢<sup>7</sup>では人口が急激に減少】

我が国は既に人口減少社会に移行しており、国立社会保障・人口問題研究所\*による推計では、平成72年(2060年)には、ピークであった平成22年(2010年)から32%減少する見通しです。

国立社会保障・人口問題研究所\*の推計に準拠する方式で実施した湖南省の将来人口推計によると、湖南省の人口は、平成22年(2010年)をピークに既に減り始め、平成72年(2060年)には平成22年(2010年)よりも20,000人以上減少(-37%)する見通しです。

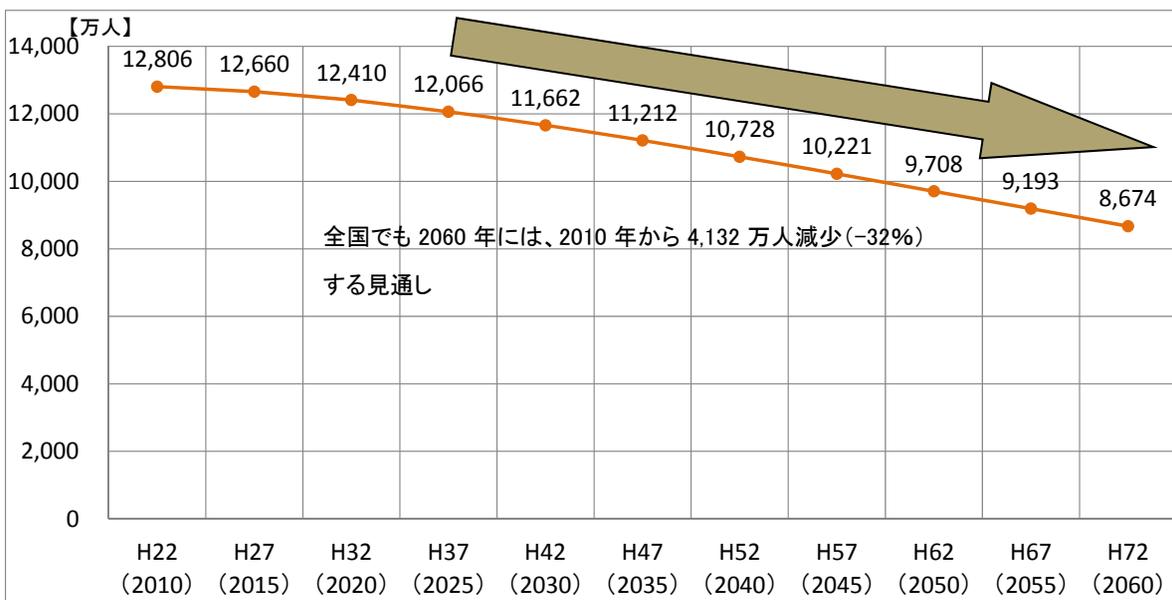


図 日本の将来人口の見通し 資料) 国立社会保障・人口問題研究所\*

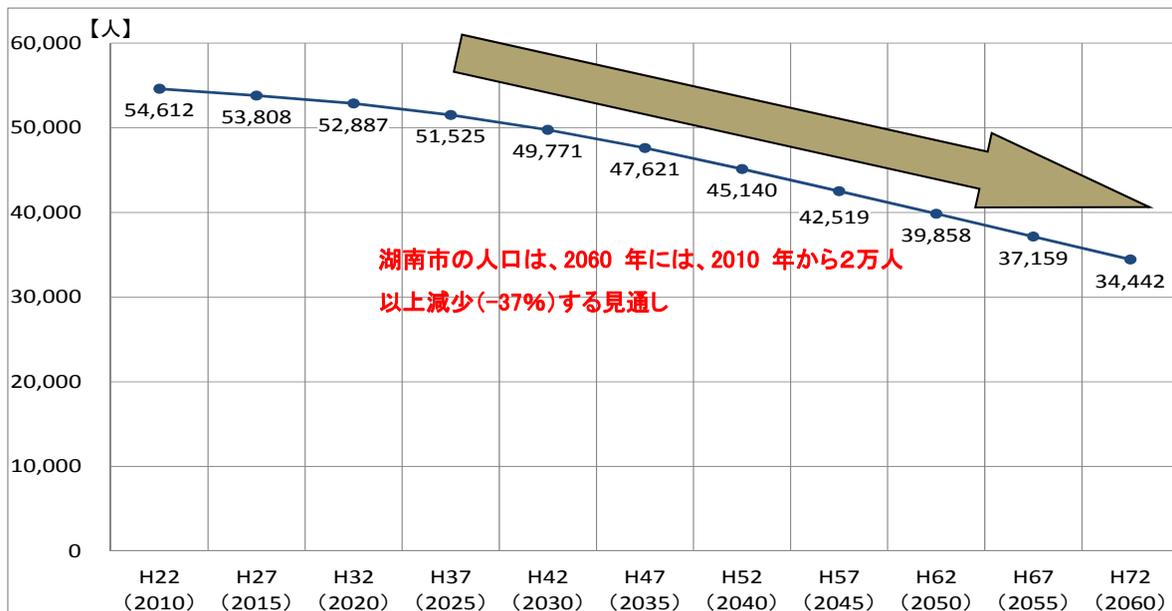


図 湖南省の将来人口の見通し 資料) 内閣府(国立社会保障・人口問題研究所\*準拠方式)

<sup>7</sup> 趨勢…全体の流れ。

### 【人口減少が社会に及ぼす影響】

これまでのまちづくりや社会制度は、人口が増加する社会を前提に考えられており、急激な人口減少が起きれば、さまざまな面で対応することが困難となります。

～人口減少が湖南省に及ぼす影響の例～

- 市内の消費の縮小
- 学校の児童数の減少、空き教室の増加
- 空き家、空き地の増加
- 耕作放棄地や管理放棄山林の増加
- 地域コミュニティの弱体化
- 一人世帯の増加、無縁社会の深刻化
- 税収の減少、行政サービスの低下、公共施設の統廃合

これらの人口減少による影響は、市内で一様に発生するのではなく、条件が不利な地域や、一見、有利に見えても課題に無関心な地域などから、まだら模様で発生していき、湖南省全体の活力を削ぐ重大な課題となります。

### 【長期的目標と10年後の目標】

長期的将来である平成72年(2060年)には、平成22年(2010年)の人口規模から1割程度の減少にとどめることをめざすこととし、そのために速やかに総合的な人口減少対策に取り組むことにより、出生数の回復、社会動態の転入超過状態に回復を図り、10年後の平成37年(2025年)には、現状の人口規模を維持することをめざします。

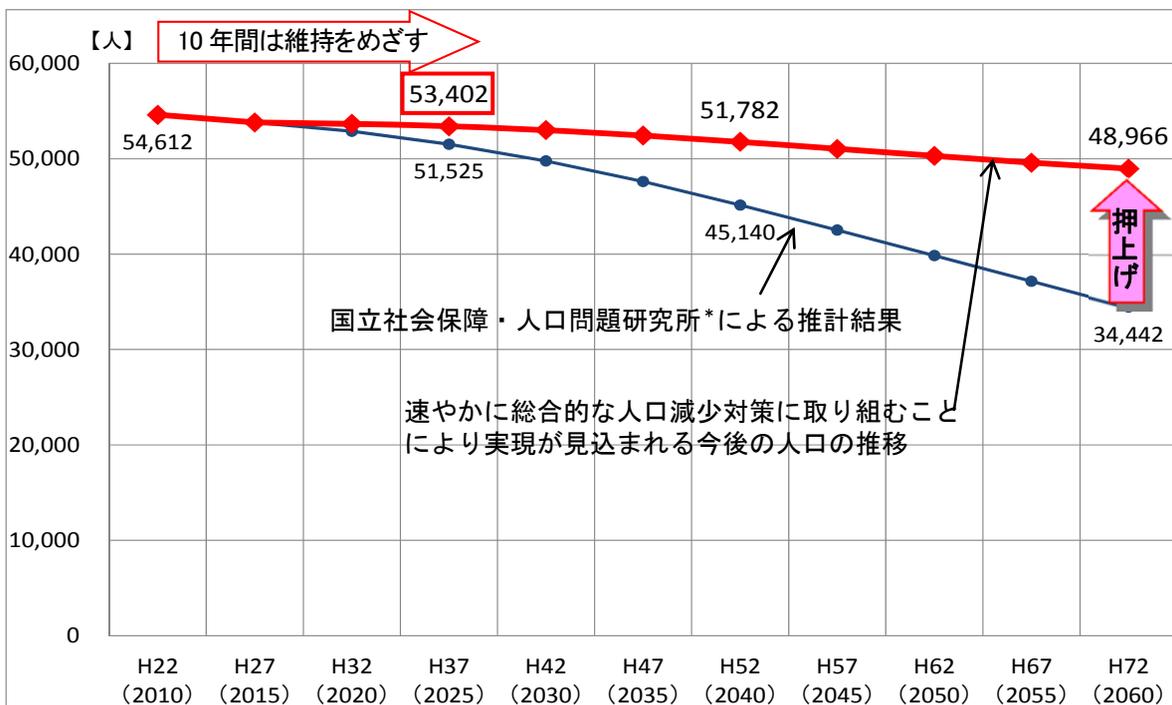


図 湖南省の将来人口の見通しと目標

### 【目標人口実現のために】

まちの将来像「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう きらめき湖南」の実現をめざすことは、湖南省への愛着と誇りを抱きながら、湖南省で暮らすことで味わえる豊かさや幸福感を実感できるまちづくりを進めることであり、とりもなおさず、急激な人口減少、少子高齢化を防ぎ、現状の人口規模を維持するとともに、中長期的に若々しさを保つことにつながります。

長らく少子化傾向が続いてきたことから、今後、次世代を育むことになる世代の人口は年々減少していくこととなります。人口減少対策の取り組みが遅れば遅れるほど、長期的将来の人口は大幅に減少することとなります。

このため、本計画と同時に策定する「湖南省まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連携により、可及的速やかに総合的な人口減少対策に取り組みます。

～人口規模の維持に必要な取り組み～

- 出生率の水準を高めること（次世代を担う子供が増えること）  
⇒出産・子育て支援
- 安定的に転入超過であること（転出をおさえて、長く転入超過であること）  
⇒観光交流活性化、ブランド向上などによる域内経済循環の活発化、雇用の増加の着実な持続

まちづくりの5つの理念を実現するために、「自立と協働のしくみ」「暮らしの創造」「まちの基盤」の3つの視点を定めます。

### 自立と協働のしくみ

自分たちでできること「自助」、地域における住民・地縁団体・NPO\*・企業など多様な担い手による「共助」とともに行政の支援「公助」の協働のしくみをつくりま

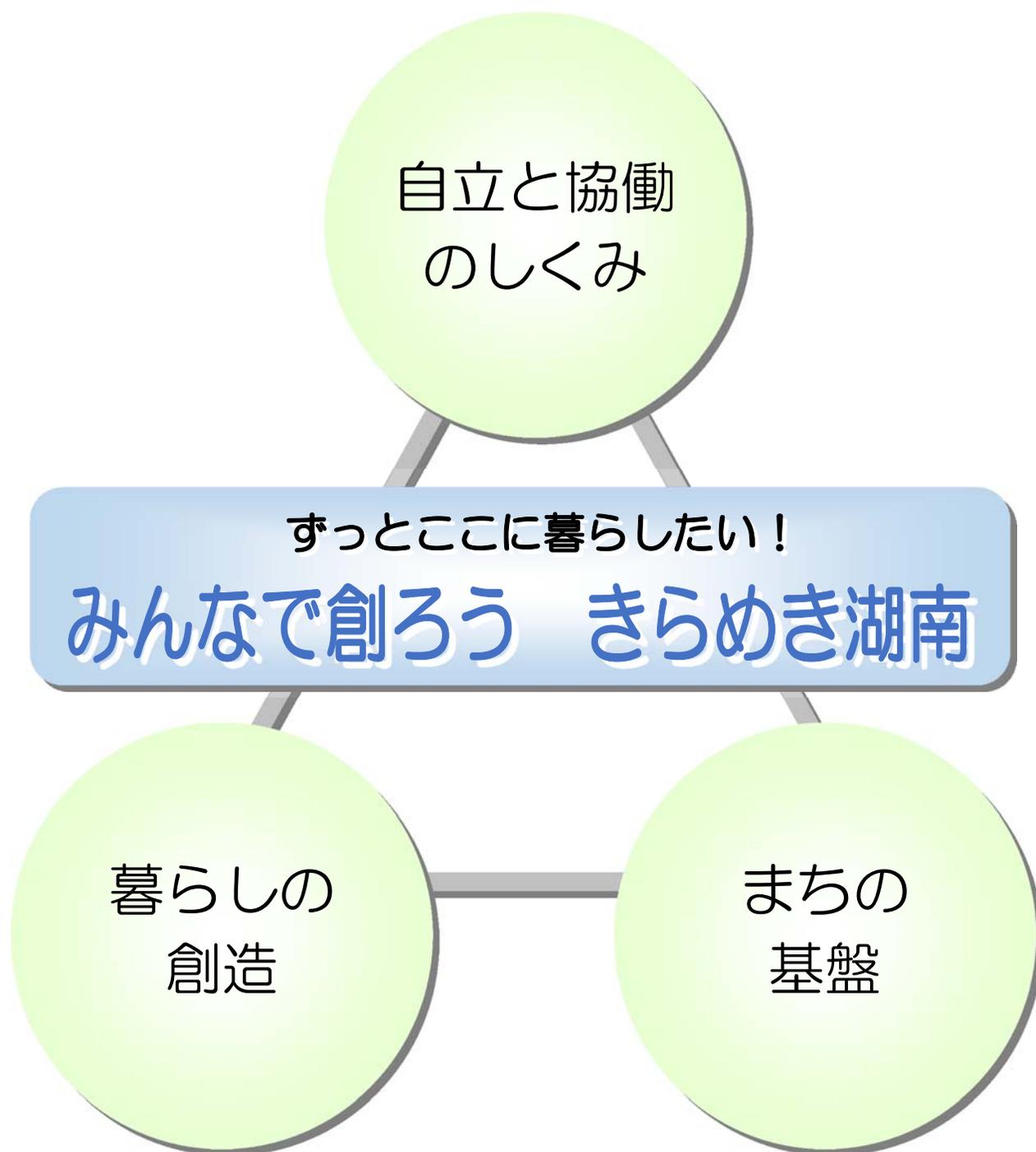
す。

### 暮らしの創造

平和と環境と人権を守るまちを基本に、活気と希望にあふれ、子どもが健やかに成長できる、安心・安全な暮らしを創造します。

### まちの基盤

まちはみんなが幸せな人生を過ごす大切なステージです。そのため、定住意向を高め、利便性の高い、快適な「都市」としての基盤を整えます。



〈まちの将来像とまちづくりの3つの視点〉

将来像を実現するためのまちづくりの6つの目標を掲げます。

### (1) みんなで共に進めるしくみをつくろう

～人権尊重と自立・自助、共助のまちづくり～

すべての市民がお互いの人権を尊重し、さまざまな差別をなくしながら、性別や国籍などに関わりなく全員が社会参画するまちづくりを進めます。

また、自分たちの地域のことは自分たちが決定し、実施するという自立・自助意識を高め、市民が交流し、協働する活動を進めることにより、地域が主役のまちづくりを推進します。併せてまちづくりのためのルールづくりや情報ネットワークの構築を進め、みんなで共にまちづくりを進めるしくみの確立をめざします。

### (2) うるおいのあるまちをつくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

美しい湖南省の自然環境を守り、次代に継承するためには、市民一人ひとりが、自然へ配慮しながら主体的に行動することが必要です。このため、市民と行政が一体となって、暮らしの中で環境保全意識の底上げを図るとともに、森林や河川、町なかの自然と共生し、身近に公園や緑、レクリエーションの場があるまちづくりをめざします。

また、地域に存在する自然エネルギーや地域内循環に対する意識を高めながら、地域自然エネルギーを活用した持続可能なまちづくりを進めます。

### (3) 活気あるまちをつくろう

～産業が集まり、人が集うまちづくり～

これまで湖南省は、基幹産業であった農業から高度経済成長を経て、産業立地を生かした工業地域として発展してきました。

交通ネットワークの整備により高まる立地条件、地域資源、地域性を最大限に生かしながら、企業誘致や新たな産業の育成を図ります。

また、自然や歴史的町並み、伝統工芸などの地域資源を活用した体験型観光など市内外から人々を引きつける本市の魅力の発掘・発信を進め、交流人口を拡大します。

農・商・工・観のさまざまな連携によって多様な産業を発展させることで、幅広い世代に対応した新たな就労機会を創出し、活気あるまちづくりをめざします。

### (4) ほっとする暮らしをつくろう

～生涯を通じた安心と健康のまちづくり～

いつまでも健康で輝き続けられる人生を送ることはすべての市民の願いです。そのために、市民相互の助けあいの心を醸成し、年齢や障がいの有無などにかかわらず安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。地域での暮らしを支える子育て支援サービス、高齢者や障がい者への生活支援サービス、介護予防や介護サービスの充実を図ります。

また、市民が支えあう地域福祉活動や防災・防犯活動を促すとともに、安心安全なまちづくりのための体制や施設・設備を充実し、生きる喜びを共有しながら心地良さとほっとする暮らしのあるまちをめざします。

### (5) いきいきとした暮らしをつくろう

～誇りとなる市民文化を創造するまちづくり～

子どもが豊かな人格形成や自己表現を果たせる教育内容の充実や環境整備とともに、市民が、いつでも、どこでも、生涯を通じて一人ひとりの潜在能力を伸ばし、その成果を適切に生かすことができるまちづくりを進めます。特に、多様な価値観・ライフスタイルなどを受容する中で、さまざまな個性を持つ人々が相互に支えあい、高めあい、新たなアイデアを生み出すことのできる環境の構築をめざします。

また、薫り高い歴史文化を守るとともに、文化芸術などの面で新たな湖南省の特色ある市民文化を育て、これらによって、誰もがいきいきと暮らすまちをめざします。

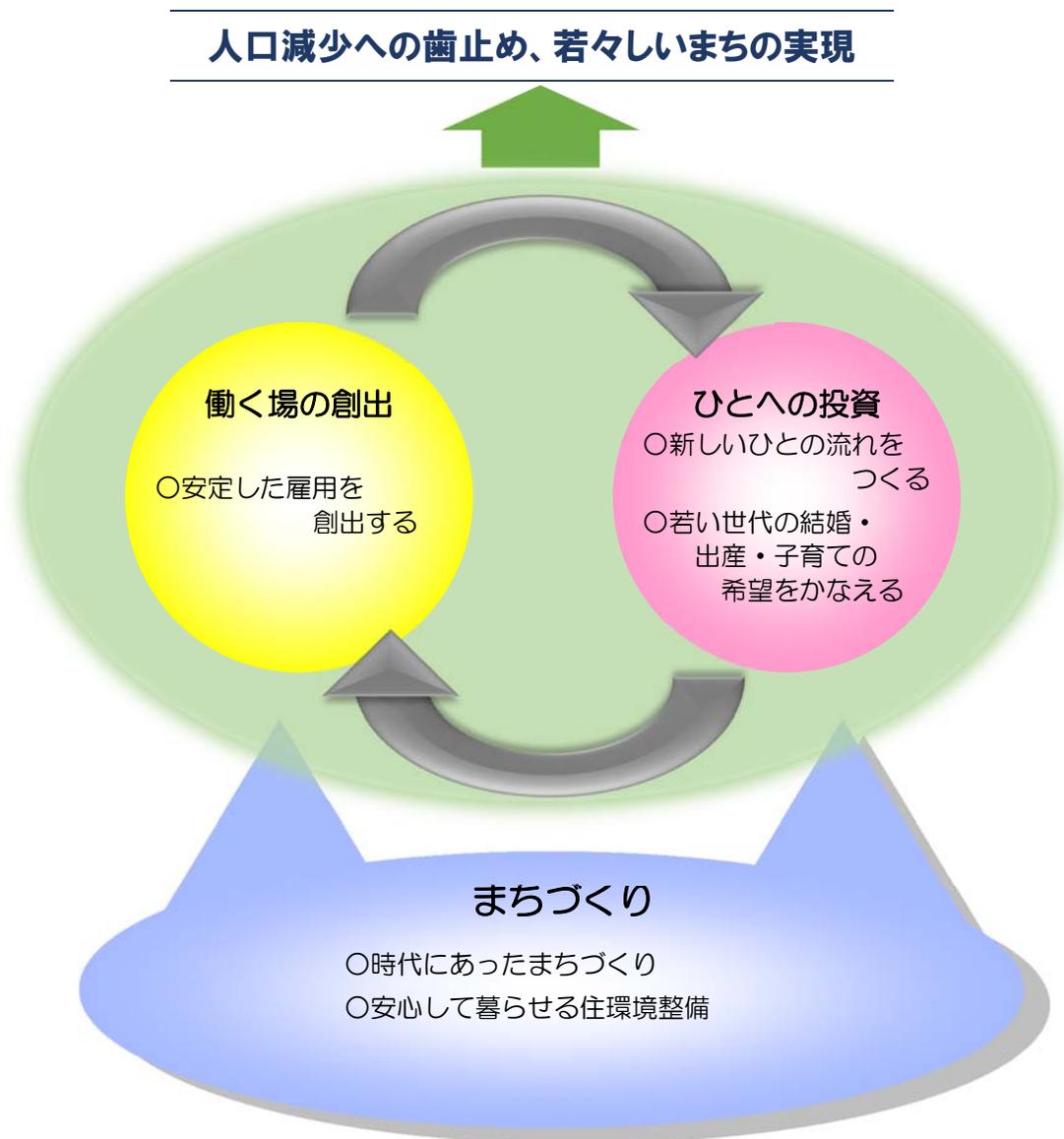
### (6) 明日を拓くしくみをつくろう

～効率的・効果的な行財政システムづくり～

基本構想を着実に実現するため、行財政改革の推進により、公共性や必要性のほか、有効性・効率性、ICTの活用などの観点からも検討を加えながら行政サービスの向上を図るとともに、市有施設の計画的な維持管理や一層の有効活用など効率的な行財政の運営を行い、近隣市町とも連携した明日を拓くしくみのあるまちづくりをめざします。

～重点プロジェクト構想～

まちの課題や市民のニーズから、今後10年間において、湖南省が重点的に推進するプロジェクトのアウトライン（大枠）を湖南のプランとして掲げます。本構想においては、「働く場の創出」と「ひとへの投資」、「まちづくり」の3つのプランを実現することで、人と地域とまちが輝くことをめざします。



第一話 湖南で働く

シュウジは、大学を卒業後、栗東湖南ジャンクション近くの工業団地に立地する企業のIT部門に勤めている。今朝、永年勤続者表彰を受けた。工業団地の隣には、内陸型国際総合物流ターミナルが整備され、国内外の貨物の中継拠点となっている。シュウジの職場からもターミナル内の慌ただしい様子が見える。ターミナルの職員に混じって生き物のように動き回るロボットやオートドライプ型トラックを眺めるシュウジの口からは「この十年でえらい発展したもんやな。」とすっかり板についた関西弁がこぼれた。入社した頃、職場の周辺は立地する企業もまばらだったが、栗東湖南ジャンクションや菩提寺スマートインターの開通後しばらくすると、京阪神・中部北陸方面へのアクセス条件の優位性が評価され、企業立地が相次いだ。

シュウジの勤める企業では永年勤続者は1週間の休暇を取得することができ、この休暇で海外に行く社員も多いが、最近市内の環境や森林ボランティアのプログラムが充実しており、それらに参加することも盛んになっている。

僕の休暇中の予定は、もう決まっている。現在産休中の妻のユウコとともに、三人目の出産に向けた準備だ。まず、ベビーベットの組み立てをしよう。ベビーバスとベビーカーもきれいにしなあかん。単なる掃除や片づけは気が乗らないが、誕生を迎える準備はこころが踊る。ユウコの体調が良ければ、一日ぐらいは国宝善水寺周辺を歩き「十二坊温泉ゆらら」でのんびりしようと考えている。

ユウコも頼りになるパートナーに仕事の引き継ぎを済ませ、ゆっくりと産休、育休に入ることができる。

ユウコの口から共同経営者のマリさんとともに、カフェを起業した



いと聞いた時には、びっくりしたものだ。東海道の空き家だった町家を借り、店舗用に改築するとなると素人がどこまでできるのか心配だったが、湖南省には、起業のコーディネートがいて、親身に相談、支援してくれたおかげでオープンにこぎつける事ができた。街道の街並みに佇む町家カフェは、厳選した豆で入れた美味しいコーヒーと手作り和菓子で人気となった。今では、近所の若い女性から高齢のご夫婦までいろいろな年代の常連客が集っている。

湖南省は、起業家を応援してくれるメニューが多く、起業をめざして移住を考えている人が、ユウコのところによく相談にきている。

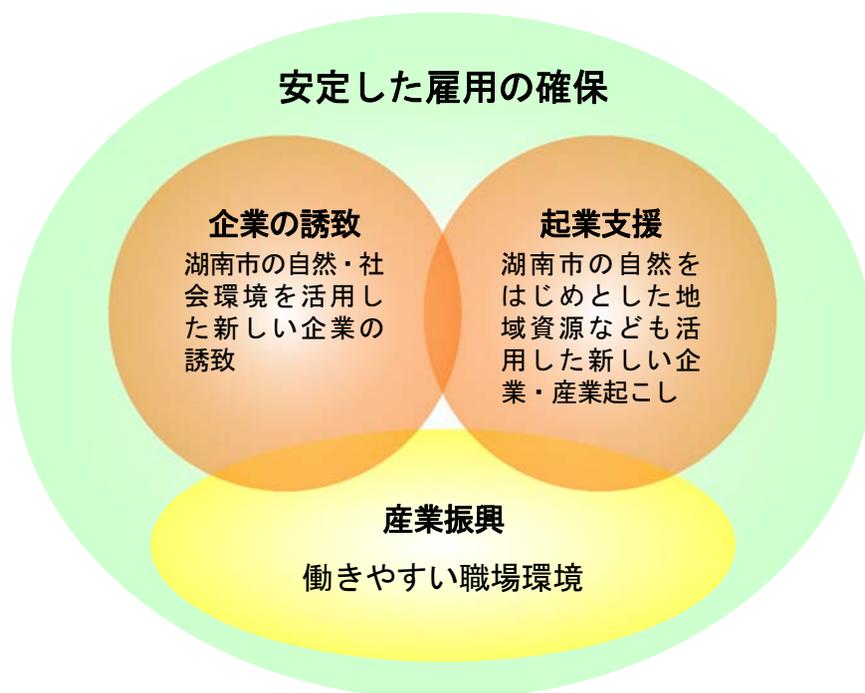
東海道には、カフェだけでなく、世界中に顧客がいる企業もあれば、地域とのつながりを大切にしたい企業など、多様な魅力的な企業があり、訪ねたことがあるが、働く人の増加に伴って昼間の人通りが増えていくことに驚いた。町家カフェがにぎわうのもうなずける。

## 働く場の創出

湖南省から人口の流出を食い止め、人口の流入を加速させるためには、若い世代から高齢者まで幅広い年代の人々にとって多様で、魅力的な働く場が必要です。また、仕事の内容だけでなく、子育てや介護、趣味などの生活と仕事が調和（ワーク・ライフ・バランス）する多様な働き方を柔軟に選択できることが重要です。

湖南省には、農林業や工芸などの「伝統的産業」とともに、近代以降に発展し本市に多く立地する「工業」があることから、これらを活用した先進の技術やシステム、消費者の変化するニーズに対応したサービスを育む「新たな研究・小売サービス業」などの誘致に取り組みます。また、湖南省の環境に配慮し、市民の生活を豊かにするための産業の育成、起業支援により、本市にふさわしい地域産業の活性化に取り組み、働く場の創出を進めます。

## 働く場の創出



第二話 湖南で育つ

桜が咲き誇る入学シーズンの春。バックを背負ったアヤが、うれしくてしょうがない様子で、友達と手をつないでいた。僕もユウコも成長したアヤの姿がとても誇らしかった。

これからの小学校生活、友達関係や勉強など親としてどのようなサポートが必要になるのか、少し不安もあったが、こればかりは、子も親も経験してみないとわからない。全ての学校にSSW（スクールソーシャルワーカー）などの相談員が配置されているから、いざとなったら相談できると思うと安心だった。それに、教科書として配布されるタブレットを使って、担任の先生との連絡がとてもスムーズになっていて親としてはうれしいかぎりだ。

アヤはこれまで、一日をタクヤとともに認定こども園\*で過していたが、小学生になってからは学校から直接、学童保育所か地域まちづくり協議会が運営する「放課後子ども教室」に行く。湖南省は多文化共生が一層進んでおり、認定子ども園にも、放課後子ども教室にも外国人の先生がいて英語を教えている。湖南省には、英語やポルトガル語の読み書き、会話ができる子どもが多い。僕も外国語は子どもたちに敵わない。

少し前まで、「小一の壁」という言葉をよく耳にしたが、今の湖南省には無縁の言葉だ。僕もユウコも働いており、特にユウコは、勤務時間が週によって変わるシフト制である。これまでは、認定こども園\*での延長保育やユウコの両親に助けられて、仕事と育児が両立できた。今では、認定こども園\*に加えて学童保育所と地域の高齢者が僕たち家族を支えてくれている。

「放課後子ども教室」は地域の高齢者が中心になって、子どもたちの居場所づくりに取り組んでくれているものだ。地域の伝統芸能に触

れる時間もあり、将棋、ピアノ、宿題も教えてくれる。子どもたちにとっては、誰もが先生であり、親戚のような存在だ。中学生や高校生になっても、悩み事があると相談に訪れる子どもたちもいるようだ。ついでに、小学生の遊び相手にもなってくれるため、アヤは彼らの訪問を楽しみにしている。ユウコの両親も「放課後子ども教室」の指導員として活躍している。

もうすぐ生まれる三人目の子どもは、最初の半年をユウコが、残りの半年を僕が育児休暇を取る予定だ。アヤのときは一月しか休暇が取れなかったが、タクヤの時は半年いっしょに過ごすことができ、子育ての楽しさを少しだけ感じるようになった。僕が育児休暇を取得して以降、職場内の男性の同僚、後輩たちも育児休暇を取得するようになった。ちょうど、その頃から、新卒の内定辞退が激減したと聞いている。

企業として優秀な人材を確保する上でも、子育てへの支援が重要なのだ。タクヤが産まれる前には、子育て支援センターに通って、熱が出た時の対処法や体調の変化にいち早く気付く方法を教えてもらったおかげで、一人前の子育てはできる自信がある。だけど、今回も子育て支援センターには行ってみるつもりだ。集まっている育児休業中の父親たちと交流し、互いに子育ての楽しさや悩みを分かちあう喜びを知ったからだ。僕は将来、間違いなくユウコの両親のように近所の子どもたちの成長を見守るだろう。



## ひとへの投資

地方への新しい流れをつくるために、「働く場の創出」を図りつつ、若い世代の湖南省への就労を促すとともに、市外から湖南省に訪れる人々を増やし、湖南省の良さを知ってもらうことで、移住・定住を促進します。

特に、若い世代の移住・定住を進めるために、安心して子どもを産み育てることができるよう、結婚から妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援、子ども・若者が社会の一員として生き生きと活動でき、夢を実現できる地域づくりを、未来への投資として積極的に取り組みます。

## ひとへの投資

### 新しい人のながれをつくる

湖南省に訪れ、愛着を感じることができる環境づくり

若い世代の定住を支援するしくみづくり

### 若い世代の希望をかなえる支援

子どもや若者が健やかに成長できる環境づくり

安心して結婚・妊娠・出産・子育てができる環境づくり

第三話 湖南の暮らし

産休に入ってからユウコは町家カフェのことが気になるようになって、今日は家族四人で東海道に出かけることにした。家の近くから水素で走るコミュニティバス「めぐるくん」に乗る。タクヤはいつもバスに乗って最前列に座るのを楽しみにしている。運転席がないため最前列はパノラマシートになっているのだ。僕もバスの高い車窓から町を眺めていると、新しい発見がある。また一つ新しい水素ステーションができている。湖南市では野洲川の水を太陽光発電の余剰電力で電気分解し、水素としてエネルギーを蓄えている。「めぐるくん」は、おひさまと野洲川とロボット技術が走らせているのだ。市内には「めぐるくん」だけでなく、利用者が指定した時間に走るオートドライブ型タクシーが走っている。こちらのシステムは、シュウジと同僚が開発したものであり、ぜひとも、多くの人に便利さを体験してもらいたいと思ひ、地域まちづくり協議会とシュウジたちが連携し、導入時に高齢者向けの乗車体験を重ねたところ、すっかり受け入れられ、好評を得ている。

「めぐるくん」の乗り継ぎ拠点にもなっている国道1号バイパス沿いの道の駅は、今日も多くの人でにぎわっている。下田ナスや弥平トウガラシをはじめとする四季折々の新鮮なブランド野菜が手に入るだけでなく、農家から直接、美味しい調理法を聞くことができたり、農業体験もできることが評判で、市内外から多くの人が訪れている。三雲駅近くでバスを降り、町家カフェまで少し歩くことにした。三雲駅の駅舎が整備されたり、周辺で働く人が増えたこともあり、周辺には、飲食店などのお店が増えている。夜遅くまで楽しめる人気のお店もあるそうだ。

ちようど、京都駅発の草津線が着いたところで、駅からは大勢の人

が出てきた。そうだ！今日は「あげあげサミット 2025」だった。このイベントはすっかり滋賀を代表するイベントとして定着している。

ユウコとマリさんの町家カフェの前にはレンタサイクルが停まっている。複線化によって草津線の運行本数が増えたせいか、大阪や京都から訪れる観光客が増えている。湖南市では、観光客に公共交通機関とレンタサイクルを利用してもらえるように共通ICカードを使えるようにしたり、インターネットで予約ができたリ、スマートフォンが電子鍵として利用できるなど工夫している。

町家カフェの引き戸を開けると、今日も席のほとんどが埋まっている。マリさんの「いらっしやいませ」の声が元気良く飛んできた。その笑顔と声にユウコも安心したようだ。

子どもたちは、空き家を活用した多目的オープンスペースで「あげあげサミット」と連携して実施されているイベントや、陶芸や絵画などのワークショップが気になってソワソワしている。常連のお客さんと話し込むユウコを町家カフェに残し、僕はアヤとタクヤを連れていつも以上に行き交う人でにぎわう東海道に出た。



## まちづくり

「働く場の創出」と「ひとへの投資」の好循環を支えるためには、人々が湖南省での生活やライフスタイルのすばらしさを実感し、安心して暮らせるような、「まちづくり」が必要です。

少子高齢化や核家族化により、子育て支援や高齢者の見守りなどが地域の役割として期待されているため、地域が多様な価値観を受け入れ、助けあいが当たり前になる時代にあった地域づくりを進めます。

公共交通網の再構築などにより交通ネットワークを形成するとともに、医療・福祉・商業などの必要なサービスを楽しむことができ誰もが安心して快適に暮らすことのできる湖南省を実現します。

## まちづくり

### 時代にあった地域づくり

心豊かな地域コミュニティの形成

### 安心して暮らせる 住環境整備

交通ネットワーク化の形成  
安心して暮らせる健康で  
快適な生活環境

本構想では、湖南省の都市機能の整備のために現在の土地利用の現状と自然環境などを勘案しながら、市域を6つのゾーンに分けてそれぞれの地域特性を明らかにします。

そのうえで、各ゾーンの都市機能および自然環境の保全と活用のための整備方針を示します。

また、あわせて交通基盤としての交流軸の整備方針を示します。

### ■ 地域構造

#### (1) 東部都市ゾーン ～東部・にぎわいの街～

ゾーンの最北部は新興住宅地および既存集落が形成され、中部は東側に工業地域があり、西側には新興住宅団地および既存集落、農地が形成されています。また、野洲川と国道1号、JR草津線を挟んで三雲駅周辺の既存集落および住宅（造成地）が形成された都市ゾーンです。

今後の整備方針としては、三雲駅周辺市街地整備、工業団地の環境整備、農地の保全、河川環境の保全などとともに、行政サービス施設の整備をはじめ、住宅地の生活環境の充実と新たな地域交流拠点（商業集積）との交通ネットワークの整備、地域交流拠点への更なる産業集積、商店街の活性化など、にぎわいの街づくりを推進します。

#### (2) 中部都市ゾーン ～中部・集いの街～

ゾーン中央は市庁舎、商工会館、文化ホールのほか大型量販店などがあり、湖南省の中心核的ゾーンです。また、野洲川と国道1号、JR草津線を挟んでJR甲西駅があり周辺に進出企業群と農地が形成され、南部に宅地造成地がある都市ゾーンです。

今後の整備方針としては、甲西駅周辺市街地整備・商業集積や行政サービス施設の整備とともに、河川環境の保全、道路ネットワークの整備、国道1号沿道への産業集積を進め、集いの街づくりを推進します。

### (3) 西部都市ゾーン ～西部・やすらぎの街～

ゾーン北部菩提寺には本市最大規模の新興住宅地があり、野洲川と国道1号、JR草津線を挟んでJR石部駅があり、そこから東側に大型量販店などの商業施設が集積しており、南側の旧東海道筋に形成された既存集落があります。また、周辺の自然環境と調和した医療福祉施設、生涯学習施設が形成された都市ゾーンです。

今後の整備方針としては、行政サービス施設の整備をはじめ、石部駅周辺の機能充実や国道1号バイパス沿いの商業・企業集積、旧街道筋環境整備、農地の保全、河川環境の保全とともに道路ネットワークの整備を進め、やすらぎの街づくりを推進します。

### (4) 農住共生ゾーン

農地と住宅地が混在するゾーンで、森林や野洲川の景観にも恵まれ、豊かな田園風景と良好な居住環境が共生しています。

今後の整備方針としては、現在のポテンシャルを生かしながら農地の保全に留意し、豊かな自然環境を身近に感じて暮らせる良好な住環境の計画的な整備を誘導します。

### (5) 北部森林田園ゾーン ～自然あふれる 癒しの森～

ゾーン北西部は県立希望が丘文化公園の一部を占め、岩根山十二坊の景勝地です。中腹にはゾーンのシンボルとなる十二坊温泉ゆららがあり、自然保養レクリエーションの場として期待されるゾーンです。

今後の整備方針としては、森林の保全と活用、温泉施設や社寺などを結ぶ遊歩道などの整備を進め、自然あふれる、癒しの森づくりを推進します。

### (6) 南部森林ゾーン ～生命輝く うるおいの森～

ゾーンのほとんどは森林地域となっていますが、西部から東部には史跡が点在します。このため、森林の保全・管理とともに豊かな森林レクリエーションの場としての活用が期待されるゾーンです。

今後の整備方針としては、森林の保全と活用、歴史遺産周辺整備とともに、各歴史遺産を結ぶ遊歩道などの整備や森林レクリエーション機能の充実を図り、生命輝く、うるおいの森づくりを推進します。

### ■ 交流軸

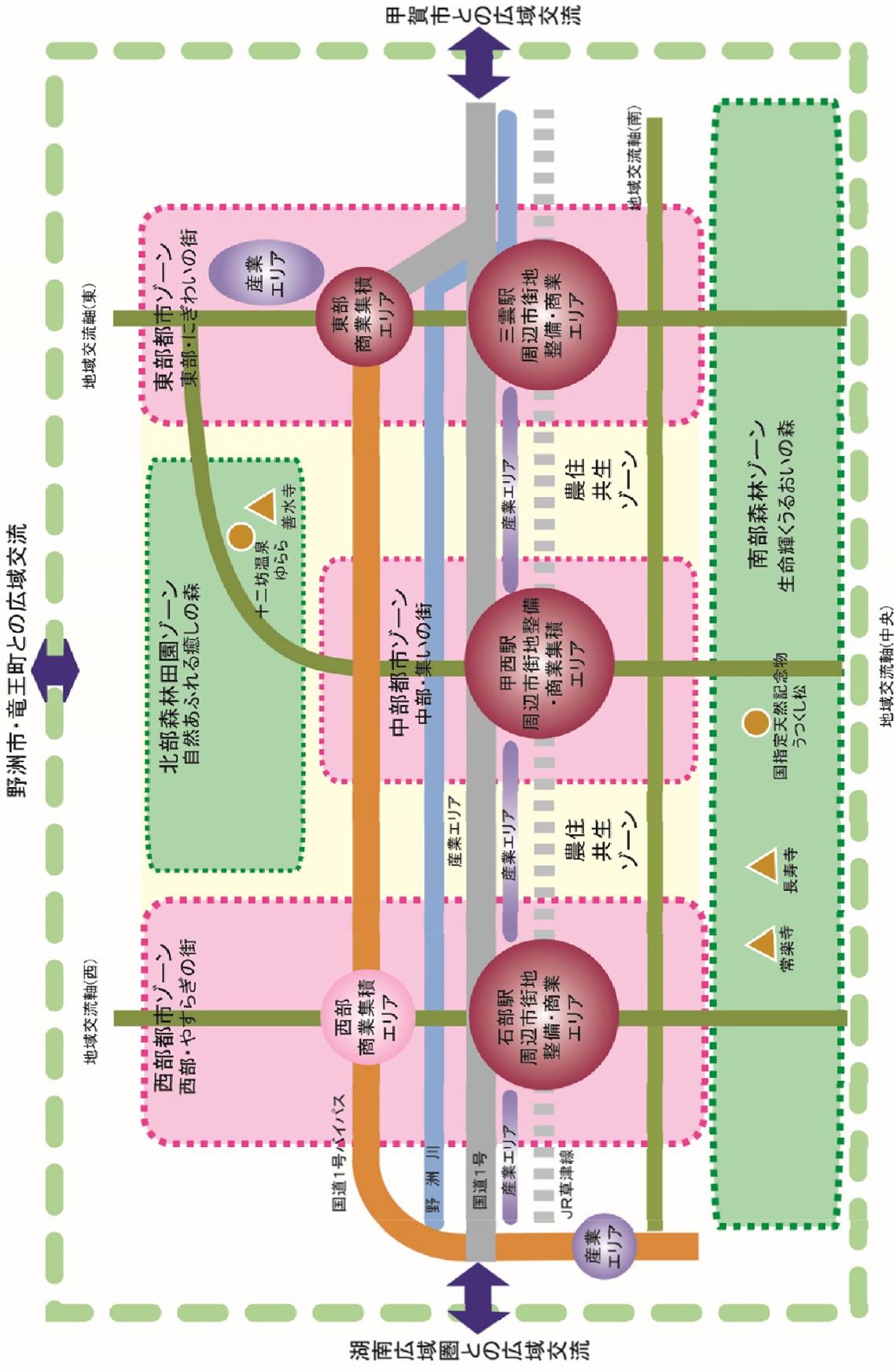
#### (1) 広域交流軸

国道1号バイパスの整備促進やJR草津線の複線化を進めることによって、東西広域交流軸の強化を図ります。また、地域交流軸との結節点における拠点創出の実現を図り、熟度に応じて都市計画の適切な見直しを進めます。

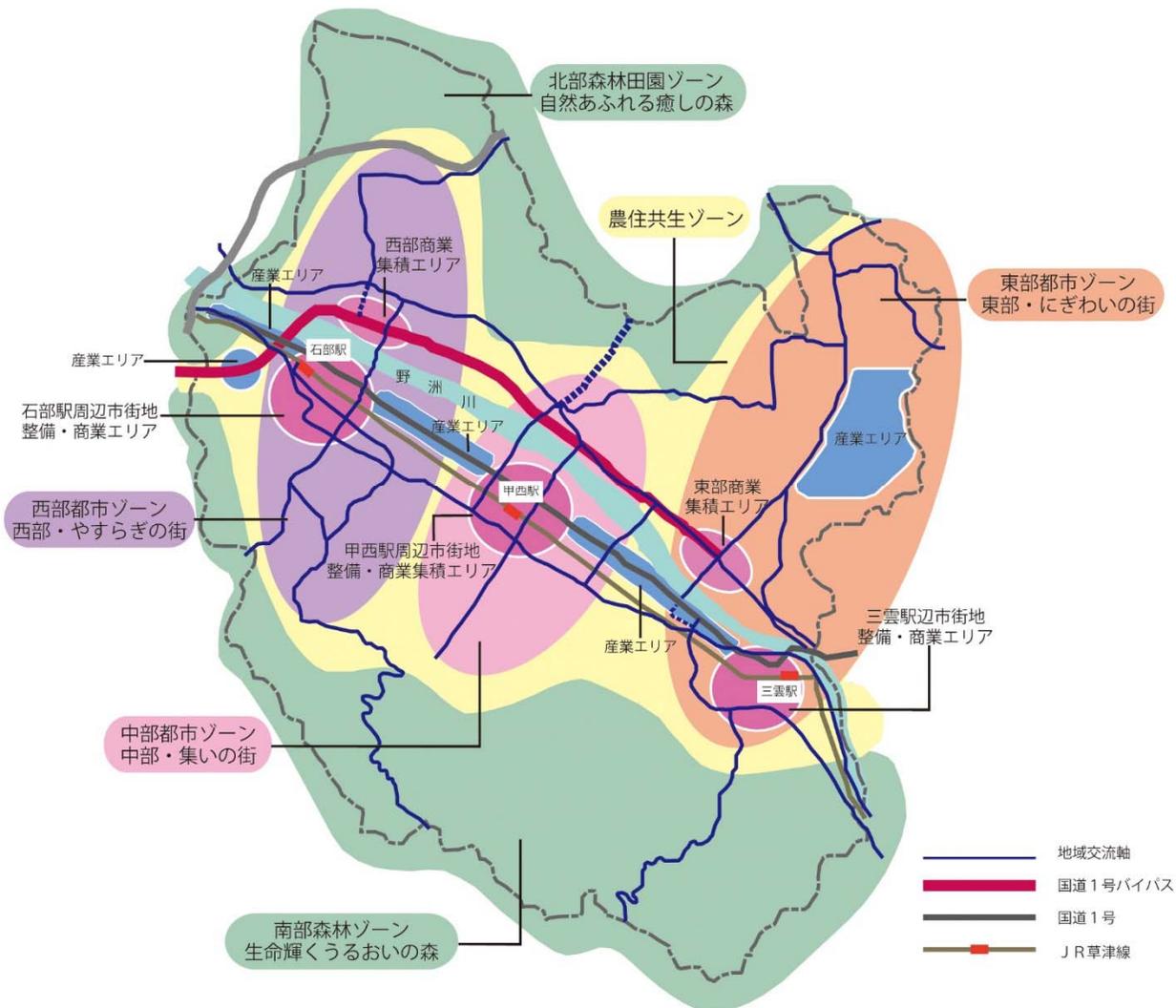
#### (2) 地域交流軸

南北および東西地域交流軸の整備によって地区間の交流機能の強化、特に各市街地および住宅地と石部駅、甲西駅、三雲駅各駅間の交流軸の強化を図ります。

# みんなのでつくる将来のまちの姿



土地利用イメージ図



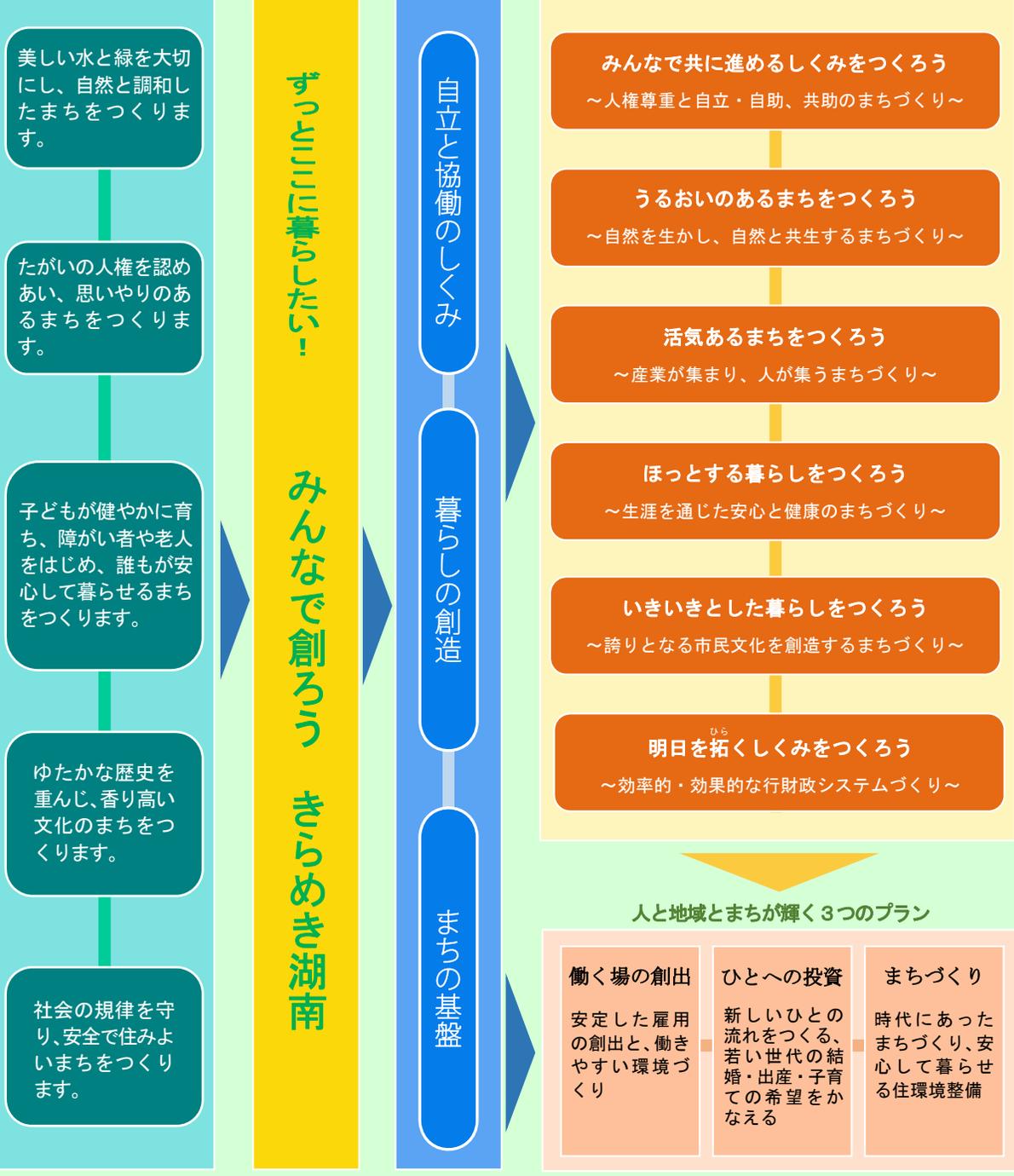
# 第二次湖南省総合計画基本構想 体系

まちづくりの5つの理念

まちの将来像

まちづくりの3つの視点

まちづくりの6つの目標



## 「基本構想」を進めるにあたって 広域連携の将来像の考え方

モータリゼーション\*の発展に伴い、市民の活動範囲は格段に広がっています。それと歩調をあわせるように地方分権が進む中、広域的な行政課題を効率的かつ効果的に解決する新しい手法が求められています。

本構想では、湖南省内の将来構想にとどまらず、周辺地域との連携交流の将来像を示すこととします。

### ■ 広域連携の姿

我が国の地方自治制度は、都道府県と市区町村の2層制を採用しています。基礎的自治体である市町村は、住民に最も身近な総合行政を担う自治体として存在し、湖南省もその一つです。湖南省は、約70km<sup>2</sup>の広さに約55,000人が居住していますが、その周囲にも同様に基礎的自治体が存在しています。

これからの時代には、湖南省単独ですべての行政サービスを担うことがより難しくなると予想され、市民の活動範囲の広域化と相まって、広域的な連携を進めていく必要があります。

ここでは、将来に向けて湖南省が考えるべき3つの広域連携像を提示し、市民の間での議論を促したいと思います。

#### (1) 甲賀市との連携

甲賀市は、湖南省の東から南に隣接する基礎的自治体で、人口が約93,000人、面積は約482km<sup>2</sup>です。甲賀市との間には、旧甲賀郡時代から広域行政が行われており、消防、清掃（し尿・ごみ）、徴税などの事務を担う「甲賀広域行政組合」と、地域の中核病院\*である甲賀病院を共同運営する「公立甲賀病院組合」の2つの一部事務組合を設置しています。旧甲賀郡域の行政官庁は甲賀市水口町に集中（裁判所、税務署、警察署、県事務所など）する一方、経済的なつながりもあります（甲賀農業協同組合、滋賀中央森林組合、滋賀県農業共済組合、水口ライオンズクラブ、湖南ロータリークラブ、水口青年会議所、甲賀広域勤労者互助会など）。甲賀市と湖南省は野洲川の上下流の関係となり、JR草津線の複線化という共通目標を持っています。湖南省と甲賀市では約15万人の勢力圏となり、これまでのような一部事務組合については共同経営の役割分担の明確化が求められます。

## (2) 竜王町との連携、野洲市との連携

蒲生郡竜王町は、湖南省の北に隣接する基礎的自治体で、人口が約 13,000 人、面積は約 45km<sup>2</sup>です。湖南省下田地区と竜王町山之上地区は古くから深い交流があり、近年では自動車工場が竜王町に建設され、従業員の多くが湖南省に居住するという関係もあります。また、竜王町のアグリパーク竜王をはじめ観光果樹園、三井アウトレットパークなどに湖南省民が、湖南省の下田商店街をはじめ市内商業施設に竜王町民が相互に交流しています。湖南省と竜王町は祖父川の上下流関係にあるとともに、湖南省三雲から湖南工業団地を抜けて竜王町へ至る県道 13 号線の交通量も多く、両市町は良好な関係を保ってきました。湖南省と竜王町で約 7 万人の勢力圏となり、新たな自治体のかたちが考えられます。

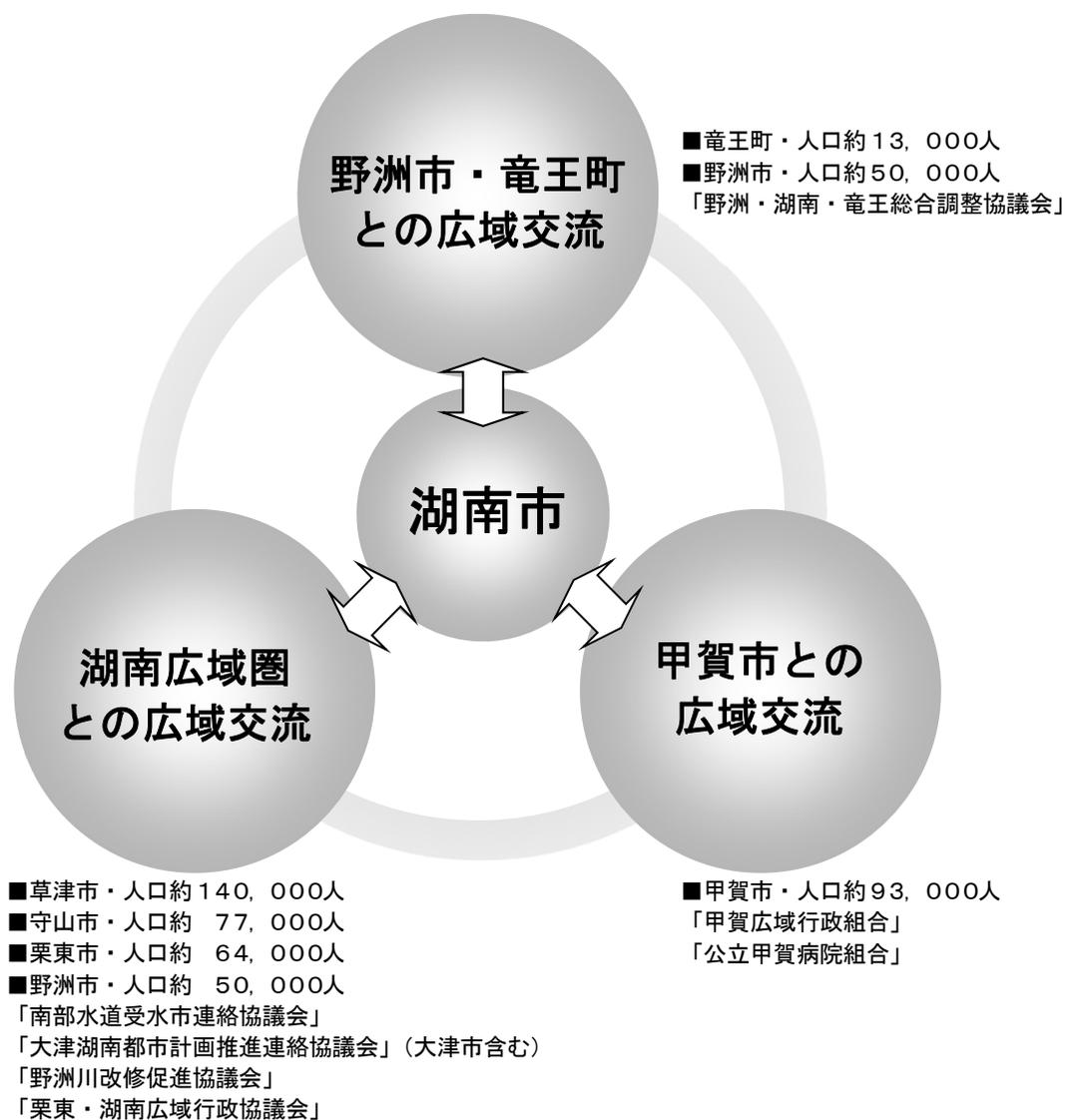
野洲市は、湖南省の北西に隣接する基礎的自治体で、人口が約 50,000 人、面積は約 61km<sup>2</sup>です。湖南省菩提寺地区をはじめ JR 琵琶湖線野洲駅を通勤通学に利用する湖南省民が多く、湖南省と野洲市は、野洲川や大山川において上下流関係にあります。野洲市、竜王町とは「野洲・湖南・竜王総合調整協議会」を設置しており、滋賀県立希望が丘文化公園を中心とした自然都市の建設を構想することが可能です。竜王町に予定されていたリゾート開発は中止されましたが、名神高速道路竜王インターや JR 琵琶湖線、国道 1 号バイパス、国道 8 号バイパスなどを利用したこの地域の潜在力は高く、回復傾向にある製造業に支えられ、将来の少子高齢社会における福祉サービスの財源確保に有利に働きます。今後は、十二坊トンネル（仮称）や JR 琵琶湖線野洲―篠原間新駅などによる交通アクセスの向上が課題となります。2 市 1 町では約 12 万人の勢力圏となり、広域連合に発展させることが考えられます。

## (3) 湖南広域との連携

湖南広域とは、草津市、守山市、栗東市および野洲市を指します。これらは、湖南省の北西から西に隣接またはその西に位置し、湖南省とは野洲川の上下流関係にあります。4 市は「湖南広域行政組合」を組織していますが、湖南省との間では、「南部水道受水市連絡協議会」を設けており、さらに大津市を加えて「大津湖南都市計画推進連絡協議会」を設置しています。また、守山市、栗東市、野洲市と湖南省の 4 市で「野洲川改修促進協議会」を組むとともに、栗東市と湖南省は「栗東・湖南広域行政協議会」を構成する関係にあり、旧東海道や国道 1 号、JR 草津線を介して密接な関係にあります。5 市の総人口は約 38 万人となり、新名神高速道路、国道 1 号バイパスや国道 8 号バイパス、JR 草津線複線化や琵琶湖線複々線化などの大きなプロジェクトが実際に動いている地域であり、広域的に連携するメリットが大きな地域でもあります。地方分権の進展に伴い、中核市に準ずる地域として、介護保険や障がい者自立支援などの福祉分野の強化、南部水道受水広域企業体の組織など、広域連合として取り組む課題は山積していると考えられます。この場合は、広域連合長を選挙で選ぶ<sup>8</sup>など、個別自治体のしがらみにとらわれない制度的担保が必要となるでしょう。

<sup>8</sup>広域連合長を選挙で選ぶ…地方自治法第二百九十一条の五の規定により、一部事務組合と異なり広域連合は連合長を選挙で選ぶことができる。

### 広域連携の概念図



※合併などによる固有名詞は現時点での表記にしています。